

【当院では新たに **脊椎専門外来** スタート！】

2022年4月より脊椎専門外来を開始いたしました。

脊椎専門医の先生（真鍋先生・角田先生）にご担当いただいております。

長らく腰痛で苦しんでいる方がおられましたら、まずは診察時にご相談くださいませ。

真鍋先生：東前橋整形外科病院 副院長 脊椎外科センター長 角田先生：脊椎外科

花言葉



モンステラ・・・“嬉しい便り”

ピンポンマム・・・“君を愛す・真実”

パンパスグラス・・・“光輝・人気”

松田院長からあなたへ 耳より情報

■再生医療治療における選択について ASC+PFC-FDのカクテルがお勧めです♪

当院で行っている再生医療治療について、問い合わせが増えております。多くは治療によって効果の得られた方からのご紹介、口コミです。とてもありがたく嬉しい限りです。さて、当院では3つの治療方法を行っておりますが、それぞれの治療方法と特徴について簡単にまとめましたので、参考にいただければと思います。*詳しくはホームページをご参照ください。

■ASC（脂肪幹細胞）療法

患者様ご自身の脂肪から幹細胞を抽出、それを培養して関節に注射する治療法です。脂肪幹細胞は、**炎症を抑える作用**と**組織を修復する作用**があることが分かっています。軟骨の厚みが増した症例もあり、**最もポテンシャルの高い治療法**です。脂肪採取は局所麻酔下で20cc採取し、培養して細胞数を増やし（6週間）関節内に注射します。

■PFC-FD療法

患者様から約50mlの採血を行い、特殊な技術で多くの「**成長因子**」を高濃度に抽出し無細胞化したうえで（約3週間後）関節内に注射します。MRI画像で見られる**骨髄浮腫が縮小、消失**するケースが（APSと比較して高頻度に）みられ、副反応もほぼなく膝に優しい注射です。

■APS療法

患者様から約55mlの採血を行い、当院にあるAPS加工専用機器にて**炎症を抑える良いタンパク質**と**成長因子**を高濃度抽出し、これを関節内に注射します。APSは関節内の炎症物質と抗炎症物質の不均衡を整える作用があり、**痛みを和らげ 軟骨の変性や破壊を抑え**ます。

★カクテル療法（ASC+PFC-FD、ASC+APS）

ASCにFD,APSを組み合わせた治療で、**最も高い治療効果が期待**できます。

Q:先日、レントゲン検査を行いました。今日も撮って大丈夫ですか？

時折、いただく質問です。恐らく、レントゲンを浴びすぎるとガンになるというイメージからのご質問かと思えます。

今回は、放射線と生活習慣病でガンになるリスクを紹介します。

図1 <放射線と生活習慣病によってガンになるリスク> 出典) 環境省ホームページ

放射線の線量 (ミリシーベルト/短時間1回)	がんの相対リスク* (倍)	生活習慣因子
1000-2000	1.8 1.6 1.6	喫煙者 大量飲酒 (毎日3合以上)
500-1000	1.4 1.4 1.29	大量飲酒 (毎日2合以上) やせ (BMI<19)
200-500	1.19 1.22 1.15-1.19 1.11-1.15	肥満 (BMI≥30) 運動不足 高塩分食品
100-200	1.08 1.06 1.02-1.03	野菜不足 受動喫煙 (非喫煙女性)
100以下	検出不可能	

上の図、相対リスクが”検出不可能”となっている 100 以下という数値は胸のレントゲンを約 2000 枚撮影することで達する数値です(撮影する部位で多少の違いはあります)。

従って、通常のレントゲン撮影で、ガンになるリスクを心配する必要は、ほぼありません。

検査は必要に応じて行わせていただいております。

今後も安心して検査を受けていただけるように

努めていきます。



放射線科 竹内